

報道関係者各位

<特別展のご案内>

「東海道五十三次」で旅気分 —富士に琳派に若冲も—

前期 2024年6月9日(日)～9月12日(木)

後期 2024年9月13日(金)～12月8日(日)



① 展覧会メインビジュアル

2024年は、東海道五十三次の最後の宿場・庄野宿^{しょうのじゆく}の完成から400年、また箱根駅伝第100回という節目の年にあたります。これを記念し、東海道第十の宿場であり、最大の難所として知られた箱根に位置する岡田美術館(館長・小林忠)では、6月9日(日)～12月8日(日)まで、歌川広重「東海道五十三次」^{ほうえいどうばん}(保永堂版)を中心とした特別展を行います。

この作品が今なお高い評価を得ているのは、四季折々の美しい景色はもちろん、各地の名所・名物の情報を盛り込み、登場人物を生き生きと描くことで、旅への憧れをかき立てる点にあります。東海道の旅を夢見た江戸の人々もまた、絵を眺めては空想をめぐらせ、家に居ながらにして旅気分を味わったのでしょう。

本展では、富士山を描いた絵画の名品や、京都の人気絵師・伊藤若冲^{じゃくちゆう}と円山応挙^{おうきよ}、広重と同時代を生きた江戸琳派の鈴木其一^{きいつ}らの作品(約30件)もあわせて公開。江戸から京都まで、展示室で旅気分をお楽しみいただけます。

※「東海道五十三次」全55枚は、前期・後期に分けて展示します。

見どころ1

琳派に応挙、若冲も！江戸時代の美術と楽しむ東海道
ゴールの京都に若冲登場

見どころ2

富士山と行く、東海道五十三次の旅
長さ約9m！横山大観の大作「霊峰一文字」^{いちもんじ}も特別公開

見どころ3

名所旧跡からグルメまで、旅情報が盛りだくさん
ガイドブックとしての魅力に迫る

【特集展示】「源氏物語の世界」

見どころ1

琳派に応挙、若冲も！江戸時代の美術と楽しむ東海道
ゴールの京都に若冲登場

江戸時代は、絵画・工芸ともに豊かな個性をそなえた画家・作家が全国各地で活躍し、ジャンルを問わず多彩な作品が生まれた時代でした。「東海道五十三次」に加え、江戸と京都を中心に、江戸時代の美術の中から東海道にちなんだ作品を展示します。

京琳派のスター・尾形光琳^{こうりん}の実弟である尾形乾山^{けんざん}のやきもの、江戸琳派の酒井抱一^{ほういつ}と弟子の鈴木其一、京都の人気絵師・伊藤若冲や円山応挙など、華やかな顔ぶれが揃います。

保永堂版
東海道
五十三次
とは？

保永堂版「東海道五十三次」江戸時代 天保4～5年(1833～34)

広重が生涯に20種以上制作した東海道シリーズの第一作で、新規の版元・保永堂^{たけのうちまごち}と組み大成功を収めた風景版画。東海道の53の宿場に、江戸日本橋と京都三条大橋を加えた55図から成り、広重と保永堂の出世作となった。

出発地 は江戸・日本橋

早朝から賑わう大江戸の中心・日本橋を大名行列が通過。朝焼けの空の表現が美しい。



②歌川広重「東海道五十三次 日本橋 朝之景」※前期展示
江戸時代 天保4～5年(1833～34) 以下すべて同じ

53の宿場を蒔絵で緻密に表現

右下の日本橋から始まり、たんすの側面を4周して天板の京都へ。行き交う旅人や犬などが丁寧に表される。



箱根(拡大部分)

まきえしよだんす
④「東海道五十三次蒔絵書篋」江戸時代後期 19世紀

到着地 は京都・三条大橋

約500キロにも及ぶ長旅の終点は、あこがれの都^{みやこ}。奥に東山と比叡山が描かれる。



③「東海道五十三次 京師 三條大橋」※後期展示



京都の有名人
若冲といえば鶏

鶏を自宅の庭に数十羽飼い、写生に励んだ伊藤若冲(1716～1800)。40代後半の精緻な名品。このほか、同じく京都で人気を集めた円山応挙(1733～95)お得意の、愛らしい子犬の絵も展示。

せつちゅうゆうけい
⑤伊藤若冲「雪中雄鶏図」
江戸時代中期 18世紀後半

見どころ2

富士山と行く、東海道五十三次の旅

長さ約9m！ 横山大観の大作「霊峰一文字」も特別公開

「東海道五十三次」全55図のうち、神奈川県から静岡県に及ぶ7図に富士山が描かれます。その大半は白い雪をかぶった神々しい姿で、旅人たちを遠くから見守るように表されます。今も昔も万人に愛され、尊敬を集める富士山に注目し、さまざまな表現により霊峰を描いた作品をご紹介します。

箱根のイメージを表した一枚

東海道随一の難所・箱根の険しい山を美しい色合いで表現し、55図の中でも屈指の名作と名高い。芦ノ湖越しに積雪の富士が描かれる。



⑥「東海道五十三次 箱根 湖水図」 ※前期展示

はみ出るほどの雄大さ

シリーズ中、富士山を主役に描いたのはこの絵だけ。大胆にも画面から山頂をはみ出させ、富士の雄大さを強調する。



⑦「東海道五十三次 原 朝之富士」 ※後期展示

今も人気の観光地を描く

湯本からほど近い塔ノ沢と、富士山をのぞむ芦ノ湖を描いた肉筆画。広重は実際に箱根を訪れ、この地を題材とした作品を数多く残した。



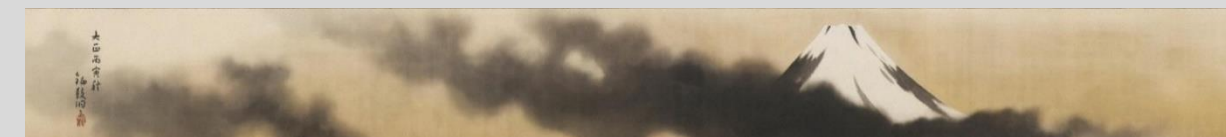
⑧歌川広重「箱根温泉場ノ図・箱根湖上ノ不二」
江戸時代後期 19世紀中頃

【特別展示】長さ約9m！大観水墨画の傑作

縦が約1m、横が約9mにも及ぶ大画面に、湧き上がる雲の中から姿を現した霊峰富士を描く。文楽の語り名人・三世竹本津太夫（1869～1941）が大病から半年ぶりに復帰するのを祝い、横山大観（1868～1958）が描き贈った大作。「一文字」とは舞台上方に飾る幕をさし、津太夫が「伊賀越道中双六」岡崎の段を語る際、実際に使われた。



⑨横山大観「霊峰一文字」（部分） 大正15年（1926）



見どころ3

名所旧跡からグルメまで、旅情報が盛りだくさん
ガイドブックとしての魅力に迫る

「東海道五十三次」には、古くから親しまれた名所旧跡をはじめ、鳴海宿の有松・鳴海絞(染物)、鞠子宿のとろろ汁といった各地の名産品も描かれます。当時の人々は、豊富な情報とともに広重の版画を楽しみ、旅気分を味わったことでしょう。本作のガイドブックとしての性格に注目し、絶大な支持を集めた理由を探ります。

在原業平も和歌を詠んだ宇津の山

鞠子と岡部の間に位置する宇津ノ谷峠。南にはかつて「鳶の細道」と呼ばれる山越えの道があり、歌枕にもなった。



⑩「東海道五十三次 岡部 宇津ノ山」※後期展示

本当は旧暦5月のお話だけど…

尾形乾山(1663～1743)は、角皿に秋の景として表現した。『伊勢物語』に登場して有名になった「鳶の細道」は、琳派が好んだ主題。



⑪尾形乾山
「色絵宇津山(鳶細道) 角皿」
江戸時代中期 18世紀

旅人が競って求めた有松絞

尾張藩が特産品として保護し、発展した有松絞は浴衣や手ぬぐいに用いられ、旅人たちに大人気の土産物だった。美しい絞り染めが並ぶ立派な店の前を、女性たちが通行する。



⑫「東海道五十三次 鳴海 名物有松絞」※前期展示

食は旅の楽しみ、宣伝効果も

草津名物「姥が餅」を出す「うばもちや」の前を、旅人や荷物を載せた駕籠が往来する。道中は滋養のつく餅が好まれ、本作には二川宿の柏餅、大津宿の走井餅も描かれる。



⑬「東海道五十三次 草津 名物立場」※前期展示



店看板(拡大部分)

歌川広重
とは？

歌川広重(1797～1858)

定火消同心(幕府直轄の防災組織)安藤源右衛門の子として江戸に生まれ、若くして家職を継ぐ。数え年15歳で浮世絵師の歌川豊広に入門。天保年間(1830～44)初め頃より風景版画を制作して人気を集め、晩年は天童藩(現在の山形県)織田家の依頼による肉筆画を数多く手がけた。

【特集展示】 源氏物語の世界

平安時代中期(11世紀)に紫式部が著した『源氏物語』は成立当初から好評を博し、「源氏物語絵巻」(12世紀)をはじめ、さまざまな形で絵画化されました。とりわけ江戸時代には、分かりやすい注釈を加えた書物やパロディ本が出版され、公家や武家だけでなく庶民にまで浸透したことから、美術においても多彩な作品が生まれています。本特集では、『源氏物語』にゆかりのある絵画・工芸作品10数件により、「源氏物語の世界」をお楽しみいただきます。



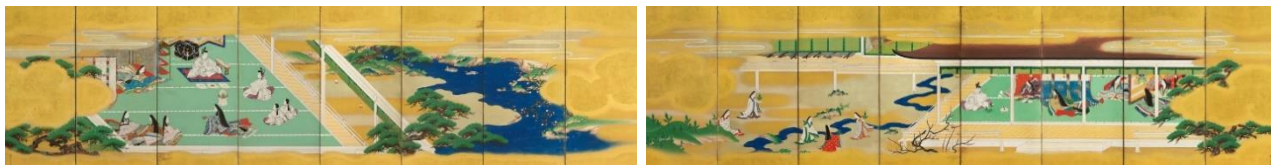
不安定な構図が 浮舟の運命を暗示

第51帖「浮舟」から、薫大将の恋人である浮舟を匂宮にほのみやが連れ出し、宇治川を渡っていく場面。2人の男性の間で揺れ動く浮舟の心を象徴的に表す。

⑭長谷川派「浮舟図屏風」
桃山時代 16～17世紀

おめでたい場面を描いた豪華な屏風

右隻に第23帖「初音」、左隻に第34帖「若菜上」を描く。金具に三葉葵紋が見え、徳川家関係の婚礼調度と考えられる。



⑮狩野邦信「源氏物語図屏風」 江戸時代後期 19世紀前半 ※前期・後期に分けて一隻ずつ展示

おんなさんのみや

女三宮は浮世絵でも人気

浮世絵において女性と犬猫の組み合わせは、第34帖「若菜上」のヒロイン・女三宮みたてえの見立絵として好まれた。



(拡大部分)

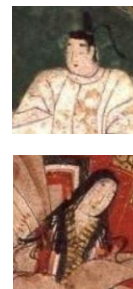
⑯勝川春章「美人に犬図」
江戸時代中期 18世紀後半

細部まで凝った意匠の収納箱

側面に「濡標」「若菜上」「若菜下」「野分」の4場面を描き、金雲には桜花や亀甲文様をほどこす。良家の女性向けに誂えた調度品か。



⑰「源氏物語手箱」
桃山～江戸時代 17世紀初頭



(拡大部分)

【開催要項】

展覧会名 「東海道五十三次」で旅気分 ―富士に琳派に若冲も―
会期 前期 2024年6月9日(日)～9月12日(木)
後期 2024年9月13日(金)～12月8日(日)
休館日 会期中無休
主催 岡田美術館
所在地 神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷493-1
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
入館料 一般・大学生2,800円(2,550円) 小中高生1,800円(1,550円)
※()内は前売り料金。前売り券(JTBレジャーチケット、チケットぴあ)は主要コンビニエンスストア並びにチケットぴあにて販売。

【特別展 関連イベント】

参加費無料(要入館料)／定員あり

■ 講演会

『北斎と広重』

2024年7月27日(土)13:00～14:30 講師:小林 忠(岡田美術館 館長)★

■ 関連講座

『絵を読む楽しみーガイド本としての「東海道五十三次」ー』

2024年10月5日(土)13:00～14:30 講師:稲場 朋子(岡田美術館 学芸員)

■ 関連スライドトーク

『旅の終点・京都でやきものを楽しむー仁清を中心にー』

2024年9月21日(土)13:00～14:00 講師:塩谷 尚子(岡田美術館 学芸員)

■ 館長によるスライドトーク

2024年6月20日、8月22日、9月12日、10月17日、11月14日 いずれも木曜日13:30～

■ 学芸員によるギャラリートーク

2024年6月21日～11月29日 毎週月・金曜日 11:00～

月曜:常設展示、金曜:特別展『東海道五十三次』で旅気分』

★マークのついた【講演会】のみ事前申し込み(0460-87-3931)が必要です。

文化振興
プログラム

国指定重要無形民俗文化財

「湯立獅子舞」演舞とワークショップ

11月2日(土) 13:00～15:00 (予定)

- ・小林忠館長のスライドトーク「江戸時代の街道と宿場」
- ・箱根宮城野 獅子舞保存会によるワークショップ
- ・湯立獅子舞(一本剣の舞)演舞

※参加費無料(要入館料)/定員あり/事前申し込み制(0460-87-3931)



【次回展予告】 御舟・一村と日本画(仮)

2024年12月15日(日)～2025年6月1日(日) ※会期は変更になる場合があります。

【岡田美術館に関するお問い合わせ先】

岡田美術館 広報担当:高橋・山本・川村 TEL:0460-87-3931 FAX:0460-87-3934 E-mail:pr@okada-museum.com

※展示替えによる休館中(6月3日～6月8日)は留守番電話となります。お問い合わせは上記メールアドレスをご利用ください。

【岡田美術館について】

岡田美術館は2013年10月、箱根・小涌谷に開館しました。全5階、展示面積約5,000㎡という屋内展示面積としては箱根随一を誇る広大な館内に、日本・東洋の陶磁器や絵画などの美術品を常時約450点展示しています。

日本で受け継がれてきた美術品を大切に守り、美と出会う楽しさを分かち合い、次代に伝え遺したい、との願いから、美術館が構想されました。美術館の正面を飾るのは、現代日本画家・福井江太郎氏によって描かれた縦12m、横30mに及ぶ風神・雷神の大壁画「風・刻(かぜ・とき)」(2013年)です。他にも深見陶冶氏、諸井謙司氏、樂雅臣氏など、現代作家の作品が屋内外に展示され、来館者をお迎えます。その他付帯施設もお楽しみください。



大壁画

琳派の祖ともいえる俵屋宗達の「風神雷神図屏風」をもとに、現代日本画家・福井江太郎氏が現代に甦らせました。構想も含め5年の歳月を掛けて制作した大壁画「風・刻」が、皆様をお迎えます。

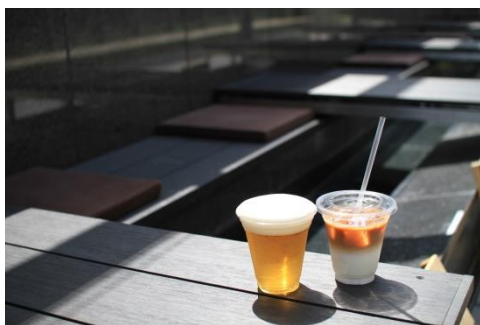
⑩美術館外観



開化亭

昭和初期の日本家屋を改装した風流な飲食施設「開化亭」は、明治半ば、この地にあった外国人向けホテルにちなんで名づけられました。趣ある古いガラス戸の向こうには、2か所に滝が流れ落ち鯉が回遊する池と、季節によって表情を変える庭園の木立が広がっています。「名物豆アジ天うどん」をはじめ、各種ドリンクなどをご用意しています。

⑪開化亭



足湯カフェ

風神・雷神の大壁画を前にした100%源泉かけ流しの足湯カフェでは、コーヒー、ビール、おしるこなどをお楽しみいただけます。なかでも、静岡県産の茶葉を使用した和紅茶は、「食のオスカー」とも呼ばれる『Great Taste Awards(英)』で金賞を受賞した逸品です。

⑫足湯カフェ



ミュージアムショップ

昨年よりコラボレーションをスタートしたピエール・エルメ・パリとの限定チョコレートは、当館ミュージアムショップでしか手に入らないショコラの組み合わせとしてご好評いただいております。

⑬アソリュティマンドショコラ ミュゼ オカダ

5個入2,800円／8個入4,800円(税込)

「東海道五十三次」で旅気分

—富士に琳派に若冲も—

広報用画像をご使用の際は下記の点にご注意ください。

- * 写真データの使用は本展覧会の紹介目的に限り、二次使用や改変（部分使用含む）は行わないでください。
- * ご使用后 2 週間以内に、当館より貸与した写真データ（以下原データという）を記録した媒体は当館に返却のうえ、保有する原データ（作業上発生したすべての原データの複製物及び複製データを含む）は消去してください。
- * web 掲載の際は「画像写真の無断転載を禁じる」旨を表記してください。
- * 作品写真には「岡田美術館蔵」、作者名、作品名、制作年ほか当館の指定する項目を表記してください。スペースに限りがあり、すべての記載が難しい場合は別途ご相談ください。
- * ご紹介いただく際は、本展の基本情報（日時・会場・電話番号・写真キャプションなど）の確認のため、校正を広報担当者までお送りください。校正期間中は 3 営業日を基本として返答させていただきますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。
- * 掲載時のキャプションは、画像をお送りする際にお渡しする表記一覧をご参照ください。
- * 下記素材以外の写真データが必要な場合は、別途お問い合わせ願います。

※①の展覧会メインビジュアル、⑩～⑰の美術館の画像はプレスリリース内にて貸出画像をご確認ください。

			
②東海道五十三次 日本橋 朝之景	③東海道五十三次 京師 三條大橋	④東海道五十三次蒔絵書箆筒	⑤雪中雄鶏図（部分）
			
⑥東海道五十三次 箱根 湖水図	⑦東海道五十三次 原 朝之富士	⑧箱根温泉場ノ図 ・箱根湖上ノ不二（部分）	⑨霊峰一文字（部分）
			
⑩東海道五十三次 岡部 宇津之山	⑪色絵宇津山（蕪細道） 図角皿	⑫東海道五十三次 鳴海 名物有松絞	⑬東海道五十三次 草津 名物立場
			
⑭浮舟図屏風（部分）	⑮源氏物語図屏風（部分）	⑯美人に犬図（部分）	⑰源氏物語手箱

FAX

0460-87-3934

E-mail

pr@okada-museum.com (岡田美術館 行)

プレスリリースをご参照の上、ご希望の写真 No. に✓印を付けてください。

✓	No.	掲載時のキャプション
	1	展覧会メインビジュアル
	2	歌川広重「東海道五十三次 日本橋 朝之景」江戸時代 天保4～5年(1833～34) 岡田美術館蔵 ※前期展示
	3	歌川広重「東海道五十三次 京師 三條大橋」江戸時代 天保4～5年(1833～34) 岡田美術館蔵 ※後期展示
	4	「東海道五十三次蒔絵書筆筥」江戸時代後期 19世紀 岡田美術館蔵
	5	伊藤若冲「雪中雄鶏図」(部分)江戸時代中期 18世紀後半 岡田美術館蔵
	6	歌川広重「東海道五十三次 箱根 湖水図」江戸時代 天保4～5年(1833～34) 岡田美術館蔵 ※前期展示
	7	歌川広重「東海道五十三次 原 朝之富士」江戸時代 天保4～5年(1833～34) 岡田美術館蔵 ※後期展示
	8	歌川広重「箱根温泉場ノ図・箱根湖上ノ不二」(部分)江戸時代後期 19世紀中頃 岡田美術館蔵
	9	横山大観「霊峰一文字」(部分)大正15年(1926) 岡田美術館蔵
	10	歌川広重「東海道五十三次 岡部 宇津之山」江戸時代 天保4～5年(1833～34) 岡田美術館蔵 ※後期展示
	11	尾形乾山「色絵宇津山(蔦細道)図角皿」江戸時代中期 18世紀 岡田美術館蔵
	12	歌川広重「東海道五十三次 鳴海 名物有松絞」江戸時代 天保4～5年(1833～34) 岡田美術館蔵 ※前期展示
	13	歌川広重「東海道五十三次 草津 名物立場」江戸時代 天保4～5年(1833～34) 岡田美術館蔵 ※前期展示
	14	長谷川派「浮舟図屏風」(部分)桃山時代 16～17世紀 岡田美術館蔵
	15	狩野邦信「源氏物語図屏風」(部分)江戸時代後期 19世紀前半 岡田美術館蔵 ※前期・後期に分けて一隻ずつ展示
	16	勝川春章「美人に犬図」(部分)江戸時代中期 18世紀後半 岡田美術館蔵
	17	「源氏物語手箱」桃山～江戸時代 17世紀初頭 岡田美術館蔵
	18	美術館外観
	19	開化亭
	20	足湯カフェ
	21	アソリュティマンド ショコラ ミュゼ オカダ

申し込みフォーム *フォームへの記入、もしくはお名刺の添付をお願いいたします。

貴社名			
媒体名			
ご担当者様名		TEL	
部署名		FAX	
E-mail			
ご住所	〒 -		
放送・掲載内容			
放送・掲載予定日	年 月 日	画像データ 必要期限	年 月 日
放映エリア/発行部数			
弊社社内ネットワークへの当該記事PDFの掲載可否	可 / 否	その他、掲載条件	

★プレゼント用招待券をご希望の方は、別途広報担当にご相談ください。



広報担当：高橋・山本・川村 mail：pr@okada-museum.com

〒250-0406 神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷 493-1 TEL：0460-87-3931